

人材育成の現状・課題

- [本県の状況] 製造業(自動車、半導体、コンビナート等)や建設業は産業従事者の約22%を占める本県の基幹産業
 [現状と課題] ①工業高校生の県内就職率61.4%(R7)、理工系学生の県内就職率22.5%(R6)で人材確保が課題
 ②実習設備の老朽化(20～30年超)により企業水準の技術教育が困難
 (半数以上の工業科生徒が「先端技術対応の学び」「大学・企業と連携した実践的な学び」を希望)
 ③県内企業・大学等との連携により本県工業の振興を担う人材と工業教育を担う人材の育成が必要

主な事業内容

本県産業を踏まえた
学科横断型の新選択科目の開発等

- ▶ 多様な産業が集積する本県の特徴を踏まえ、**企業や大学と連携し、学科横断型の科目を開発**
- ▶ **企業や大学から講師を招き、社会実装型の学びを展開**

【学校設定科目(予定・科目名は仮称)】

電気科×電子科：半導体テクノロジー基礎

機械科×工業化学科：グリーンコンビナート概論

建築科×土木科×電子科：未来まちづくりAI工学

- ▶ 大学に進学し、高度な専門知識と課題解決能力を有した開発技術者の育成に向け、「数学Ⅲ」の選択履修を可能とするなど、**高大接続を念頭に置いたカリキュラムを編成**



企業・大学・他学科等と連携した学びの社会実装

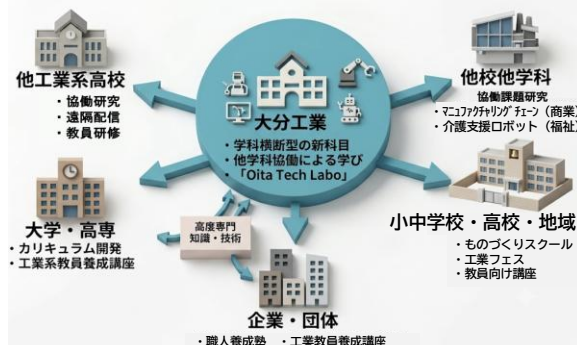


- ▶ 企業や大学教員等をメンターとし、以下のような取組を実施
 - ・大分商業高校と協働で、企画から製造・販売までの一連のプロセスを一体的に捉える「マニファクチャリングチェーン課題研究」を実施
 - ・他校福祉科と連携して、介護支援ロボットを研究開発し、暮らしを支えるものづくりを実践
- ▶ 県内大学等と連携し、高校在学時に高度専門的な講義を履修し、大学等進学後に単位認定するアドバンスト・プレイスメントを検討

事業概念図

学科横断の新設科目による高度専門人材の育成

電気×電子、機械×工業化学、建築×土木×電子の本県産業の特徴を踏まえた学科横断型の科目を新設し、産業界・大学との連携により高度な学びを提供

学びの社会実装による
「高度技能者」と「開発技術者」の育成

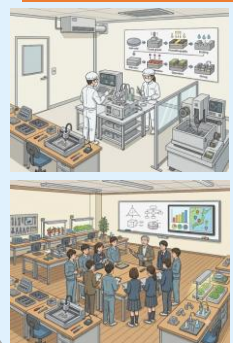
産業界・大学と連携したインターンシップ

地元企業での長期インターンシップを実施
 市場ニーズを意識したものづくりを学び、高度技能者・開発技術者としての専門力と職業意識を育成

他校等への普及・波及

- 学校・学科間の連携強化によるシナジー創出のため、**県内工業科設置校と「学校横断型オンライン部活動」を実施**。遠隔機器を活用しつつ、長期休業等にはOita Tech Laboにおける共同研究等を実施
- 企業の現役技術者等による教員対象のスキルアップ研修を実施
- Oita Tech Laboを地域に開放し、**小中学生・保護者対象のものづくり体験を定期開催**
- 高度実習機器等を活用し、**理工系学部進学を希望する普通科高校の生徒等を対象にした「工業フェス(仮称)」を実施**

ものづくり拠点Oita Tech Laboの整備



- ▶ 半導体製造装置やBIM/CIMなど、**企業水準の設備等を備えた高度な実習環境を整備**
- ▶ 学科共用の協働実習スペースを整備し、**学科を横断した学習を展開**
- ▶ **企業技術者・大学教員を招いた合同実習や、3Dプリンタ等を活用した課題解決型学習を展開**